

令和元年度 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標	1 知性と感性を磨き、健康な身体と健全な精神を身につけた自立した人間を育てる。 2 自主性と創造性を培い、自己実現に向けた実践力のある人間を育てる。 3 「農」の学習をとおして「いのち」と環境の大切さを学び、心豊かな人間を育てる。 4 地域社会とのかかわり」をとおして、社会の発展に貢献できる人間を育てる。
めざす生徒像	1 知性と感性を磨き、健康な身体と健全な精神を身につけた自立した人間を育てる。 2 自主性と創造性を培い、自己実現に向けた実践力のある人間を育てる。 3 「農」の学習をとおして「いのち」と環境の大切さを学び、心豊かな人間を育てる。 4 地域社会とのかかわり」をとおして、社会の発展に貢献できる人間を育てる。
具体的目標 重点目標	1 学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成 2 豊かな感性と表現活動の充実推進と部活動の活性化 3 社会性を育む生徒指導と安全指導の充実、徹底 4 特色ある学校づくりの推進と地域連携の強化 5 適正で効率的な学校運営

A	達成
B	概ね達成
C	やや不十分
D	不十分

番号	評価目標	具体的方策と指標・基準等	達成度	自己評価	学校関係者評価
1	指導法・指導内容の改善充実や、学力の定着を図る。	授業時間の確保のもと、わかる授業の推進、全学年での「朝学習」実施により基礎学力の向上と定着を図る。 各学年と連携し、学業不振者・出席不良者等への早期の対応を図る。 3年間を見通した計画に基づき、各学年で「総合的な探究の時間」を効果的に実施プロジェクト学習の推進と農業クラブ活動の活性化を図り、農業クラブの県大会最優秀、上位大会入賞を目指す。	C	○生徒の発達に応じた授業を展開している。 ☆教科を超えて指導方法を情報交換する場を持ちたい。 ●朝学習は順調に実施しているが、取組みが不十分な生徒もいる。 ☆次年度に向け、実施方法や評価方法などについて検討する。 ○2学期の時点での成績不振者数は前年度より減少した。今後も教科・学年と連携して指導したい。 ☆初期指導などについて、教科担当者と学年団との情報交換会を設定したい。 ○総合的な探究の時間は計画的に実施し、生徒の進路意識を高めるなどの成果をあげている。 ☆さらに他分野と連携し「探究」した内容を深める。 ○今年度は農業クラブ全国大会式典選抜校として、特に問題なく成果裏に終えることができ、終了後は生徒達の達成感が感じられた。また、生徒については県内で唯一、農業鑑定競技会で優秀賞を獲得するなど、生徒の努力と教員側の指導の成果が見られた。 ●プロジェクト発表県大会では、5グループ出場したが、残念ながら入賞には至らなかった。プロジェクト学習については、さらに地域課題を発見し、新しいテーマ設定と課題解決に向けた取組みが必要である。 ☆課題研究等でのプロジェクト学習については、教師と生徒が一体となって、さらに地域と連携しながら、地域農業の課題解決型学習に発展させていきたい。	○地域連携事業を通して、地域交流農園活動など地域交流を基本とした農福連携などの生きた体験学習を行っている。 ○農業鑑定競技会優秀賞など成果が出ていることは評価されるものと考えており、今後とも地域連携事業を充実させ、生徒の総合力が向上するような取組みを目指していただきたい。 ☆プロジェクト発表については、まさに現状での地域課題の発見と課題解決への取組みがポイントだと思う。
2	基本的な生活習慣を確立し、部活動の活性化を図り、元気ある学校を目指す。	学年・学科と連携した定期的な服装髪型指導や全校集会等での指導をとおして、SNSのマネー等を含め、規範意識の向上を図り、問題行動の未然防止に努める。 立哨指導（朝の挨拶運動、夕方の駅指導）、自転車点検、委員会活動、地域との連携等をおとて、全学校のマナー向上と交通事故防止に努める。 外部コーチを委嘱するなどして、各部活動の活性化・強化を図るとともに、完成年度の今年度の状況把握に努め、課題等を整理し、次年度以降に円滑な活動ができるよう検討する。 委員会活動の充実と生徒が育つ学校行事（駅伝大会、庄農祭、スポーツ大会等）となるよう指導する。	C	○全校・学年集会や服装髪型指導等を通して、一部守れない生徒がいるが、規律を守り生活する生徒の意識はおおむね高くなっている傾向にある。毎年、1年生を中心に対人関係やSNS等でのトラブルが起きるなど中々落ち着かない状況もあるが、今年度は学年団の初期の面談指導などきめ細かい指導の成果もあり、落ち着いた生活が見られる。 ●問題行動等で指導するケースは、春先は2・3年生が多い状況であった。軽率な考えから問題行動につながっているケースがほとんどであった。SNS上に写真や動画を安易に載せる。現在使用されていない敷地内や建物に肝試し目的で安易に入るなど。 ☆スマートフォンを使う中で、SNSなどでトラブルの発覚などが課題となっている。 ○朝の挨拶指導や放課後の駅指導等の効果もあり、昨年度より藤島駅や地域からの苦情等は減少傾向にある。また、マナーアップ運動等で教務課との連携や地区の安全協会・PTAの立哨指導や挨拶運動の効果も出ていると思われる。交通ルールやマナー、挨拶等への意識は高い傾向にある。 ●大抵我々につながる交通事故が2件あった。2件とも保護者運転での事故であったが、後部座席でシートベルトをしていない状況もあり、呼びかけ等も必要であった。また、歩きながら、自転車に乗りながらのスマートフォンやイヤホン等の使用に関する呼びかけが少なかつたように感じる。事故の被害者・加害者の未然防止のため呼びかけ等に取り組んでいきたい。 ☆ながら歩きや自転車のながら運転の危険性の呼びかけをする。自動車に乗車の際、後部座席でもシートベルトを着用するよう注意喚起をする。 ○運動部・文化部、農業部、農業部とそれぞれ特色ある活動を行っている。意欲的に活動する生徒も多く、各種大会や講演会にも参加するなど積極的な面も見える。農業部の加工部門では庄農祭・農産物展など有意義な活動が目立った。 ●その反面、普段の活動意欲が下がっている生徒がいるのも現状としてある。全員加入が原則となっているが、未加入者や退部したあとで未所属の生徒が多くいるように感じられる。コーチの委嘱等（指導者確保）や設備を整えるなど活発になる手立てと、新学科完成年度である今年度の状況も見て、在り方などについて検討も必要である。 ☆今年度より新学科完成年度となり、未所属生徒の課題や活動内容、部員数など部活動を運営していく中で課題も出ている状況があり、次年度以降改善できる所は改善していきたい。 ○庄農祭をはじめとする各行事においてそれぞれの特色を生かしながら奮闘した。庄農祭では地域の方がたくさん来場され、学校のPRもできた。保護者や外部機関の協力のおかげで質の高い行事を行うことができた。スポーツ大会や駅伝大会の体育行事も庄農祭と同様に生徒が活躍できる行事だったと感じる。 ●各行事に、例年とほぼ同じ内容で取り組んだが、生徒・職員数が減少した分、一人ひとりの負担が大きくなったことも課題になっている。 ☆リムル化できる所はどの部分かなど検証し次年度以降に生かしていきたい。	○生徒が少ないわりには、文化部内農園加工部門において積極的に活動していると評価する。 ○☆庄農祭では、農産物や加工品の販売、巨大絵の作製など、多くの地域住民を集める充実した内容となった。自信をもって地域内外への発信強化をすべく考える。また、販売物などがポンチの高さも評価されるものと思うし、それについても地域への発信をすべく考える。 ○☆各部とも特徴ある庄農祭が活動しているという点では評価している。ぜひ活動意欲が下がっている生徒にも思いを伝えたい。
3	生徒全員の進路希望実現を目指す。	各学年2～3回の個人面談期間、総合的な学習の時間等をおとて進路意識の醸成を図り、キャリアノートを活用し計画的に継続した指導を行う。 「進路だより」の発行等をおとし、生徒へ進路情報を積極的に提供し、進路意識の高揚を図るとともに、保護者に対しては進路に関する情報提供に努める。 教科と連携のもと、各種資格取得を推進するとともに、合格率アップに向け指導改善に努める。 進路指導課と農業課の連携を図り、農業関連機関での研修や自営の進路指導及び農業関連企業の進路開拓に積極的に取り組む。 関係機関との密接な連携のもと、講習会や添削指導を実施し、就職進学とともに、卒業予定者100%の進路先内定率を目指す。	C	○個人面談や三者面談、進路希望調査を計画的に実施するとともに、総合的な学習の時間では学年と連携し、進路意識を高めることができた。様々な機会に外部団体の協力も得ることができた。 ●生徒一人ひとりがかせうの機会をどの程度自分の進路に結びつけて考えられたか、十分に把握できなかった。 ☆キャリアノートの見直しを活用。（様々な活動によって学んだことや成果、今後の目標や課題を記録し蓄積していく形にする） ○「進路だより」の発行を行い、情報の発信に努めたが、紙面や発信できる情報は限られており十分な発信は難しかった。 ☆さらに進路に関する情報を「進路だより」の内部やスタイルを検討していく必要がある。 ○今年度の各種資格取得については、農業技術検定、アールズ溶接、刃物溶接、小型車両取扱い、食品衛生責任者、危険物取扱者等に多くの生徒が取り組んだ。特に、食品衛生責任者取得については、学科に関係なく多くの生徒が取得した。必ずしも取得資格と進路先が関連しているとは言えないが、学習歴の蓄積の一環として各種資格取得に積極的に取り組ませることは必要である。 ●農業技術検定については、希望者による受験であったが、3級については合格率は100%であった。残念ながら2級は合格までは至らなかった。来年度の3年生の受験に向けた指導体制を確立が課題である。 ☆教育講習による資格取得には積極的に取り組むが、検定・受験等による資格取得についてはやや消極的であり、日頃の指導体制の充実や普通科目との連携が必要である。	○☆12月中旬に全員の進路決定がされていることは高い評価とすべく考える。食文化推進協議会の一員となったこともあり、就職に加え地元食品関係業への就職がさらに伸びるよう進路指導をお願いしたい。 ●☆庄農祭の生徒数が減るといことは、農業に従事する人数とイコールということであり、農業で生活できるかどうかに関係していると思う。農業への従事者を増やすには、農業で生活しているよう収益をアップさせることが必要であり、それにはICTを活用したスマート農業について学習させてはどうか。 ☆引き続き生徒にさまざまな資格を取得させていきたい。
4	農業高校として地域に開かれた学校づくりに努める。	「魅力あふれる学校づくり推進事業」を活用し、6次産業化に向けた商品開発と、それに対応できる人材育成を地域と連携しながら推進する。 地域（鶴岡市藤島庁舎、協栄会、JA等）と連携し、地域美化活動や6次産業化を見据えた加工食品の商品開発に向け取り組んでいく。 農業高校や山形大学農学部等高等教育機関・研究機関との連携を推進する。 地域（保育園・小中学校）からの農業体験学習の受入や地域の方を対象とした公開講座等を通じて、学校理解を推進する。 地域からの要請をふまえ、催し等への参加・出店をおとし、学習内容のPRを図る。	B	○中長期インターンシップは1学年1名、3学年2名が参加した。農業関連校への進学者は6名（山大1名、農林大学校5名）。農業関連企業（食品関連を含む）へも多数就職した。今年度は自営の生徒はなかった。 ●県農林水産部農業経営・担い手支援課とも連携しながら、農業法人就職希望者が増える取組みはしているが、なかなか増える状況には至っていないのが現状である。 ☆引き続き、農業関連企業に対しての学内企業説明会への参加や、生徒に対しての中長期インターンシップへの参加を呼びかける。 ○就職・進学ともに早い段階で志望先を決定していた生徒が多かったこと、関係機関と連携を取れたこと、添削指導等の個別指導に力を入れたこともあり、12月中旬に全員の進路先が決定した。 ☆全員に面接ノートを作らせ、十分な準備をして試験に臨ませる。進路に応じた模擬試験の実施。 ○「Shono日誌」は随時更新され、「学校紹介ビデオ第2弾」をアップするなど情報発信が行われた。 ●情報委員会を立ち上げ、改善を呼びかけたものの、部活動ページの改善は進まなかった。 ☆存在しない部活動を削除し、部紹介のページの充実を図る。 ☆F BなどのSNSを活用し、「広がる情報配信」に力を入れる。 ○加工部門・農業部等、地域の各種イベントやコンテスト等に出場するなど、加工学習や商品開発を通して6次産業化に対応できる人材育成と商品開発に取り組んでおり、その部活動等も重ね、生徒の学習意欲も向上している。 ○地域連携協議会の事業については、教科・部門及び部活動等での積極的な建設的取り組み、食品開発、農福連携、現場観察等マスコミでも多く報道して頂き、学校PRに繋がった。特にうどん製造については、地域の飲食店コラボしながら、地域の方々に高評価を受けている。 ☆さらに自産自銷や人と連携しながら商品開発の取組も進めていきたい。 ○農業大学や農林大学校への進学については、100%達成できた。次年度についても、高等教育への進学についてはさらに意識を高め、希望実現目指し、指導の徹底を図ってきたい。 ●○生徒の高等教育機関との学術連携は不十分であるが、JA・企業との連携による講習会や研修や教員の研修については積極的に取り組んだ。 ○農場見学や農業体験については、積極的に受け入れてきた。また、幼児の稲作体験、地域交流農園、うどん製造等について地域の方々や合同授業・実習を実施した。 ☆学校PRに繋がる、公開講座を実施していきたい。 ○今年度も高品質の安心安全な生産物をより多く地域に提供でき、学校のPR効果も高く、生徒の自信にも繋がった。今後も継続していきたい。 ●要請が多すぎ、対応できない部分も出てきた。	○地域との連携が以前よりはかられ、社会と学校が近くなったことは、生徒の意識にも変化があると思われる。 ○庄農祭の多くの来場者や連携事業による庄農うどんのキャンペーンなど非常に内容になっているものも多かった。庄農うどんのキャンペーンは、地域に非常にインパクトのある事業であり、高校の存在感が地域の中でもクローズアップされている。 ☆生徒が地域に望むことはないのか。JA女性部としては、今後の活動方針を考えていくための委員会としての生徒から話を聞く機会を設けていただけたい。 ○学校紹介ビデオ第2弾等の情報発信が素晴らしいと思う。
	自己評価			・肯定的評価が75%以上の項目が、生徒では32項目中19項目（昨年30項目中20項目）、保護者では31項目中25項目（昨年30項目中29項目）、教職員では38項目中31項目（昨年40項目中35項目）と生徒・保護者・教職員ともに減少した。生徒は肯定的評価が50%に満たない項目は少ない（昨年0）。 ・生徒・保護者・教職員ともに農業教育に対する評価は概ね高い。 ・生徒・保護者・教職員ともに部活動については低い評価であり、特に教職員は最下位、生徒は下から4位である。 ・保護者のPTAへの積極性が依然低迷している。HPの充実やメールの導入などにより、「学校の情報や活動を公開」や「地域農業のための情報を発信」に対する評価が年々上昇しているが、保護者のPTA活動への参加意識が低下傾向にあることは非常に残念なことである。 ・「学校情報や活動状況を十分に発信」「地域への情報発信、地域と連携した学習活動」については教職員の肯定的評価が100%であった。	・学校評価アンケートの生徒のコメント欄に「セクハラやめたい」とか「先生方は生徒をバカにして自分たちの話を聞こうとしない」という記載があるのが気になる。実際にそのような行為ははかないと信じたいが、生徒からそのような伝えられる接し方をなくし、先生方が安心して学校生活を送れる学校づくりを推進していくことが必要ではないか。